

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、下記検査項目におきまして、検査内容の変更をご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 変更日

2024年5月1日（水）より閲覧可

■ 対象項目

検査項目
染色体検査

■ 変更内容

染色体検査における、増殖不良についての説明文書をご案内いたします。
説明文書につきましては、弊社報告書のQRコードから閲覧可能となります。



【説明文 増殖不良報告について】

増殖不良とは？

培養してもG-band検査の対象である分裂中期（Metaphase）の細胞を得ることができず、分析不可能であったことを意味します。

増殖不良の原因は？

主な原因は4つ考えられます。

- ①検体に含まれる有核細胞数が検査に必要な目安となる 1×10^7 個未満であったため、Metaphaseが得られなかった場合。
- ②有核細胞数は検査に必要な 1×10^7 個以上あったが、分裂可能な細胞が少なく Metaphaseが得られなかった場合。
- ③検体に含まれていた細菌の繁殖により細胞分裂が阻害され、Metaphaseが得られなかった場合。
- ④ご提出いただいた検体に十分な有核細胞が含まれていても、細胞周期と培養条件が合わなかった場合。

リンパ節や組織で増殖不良率が高い原因は？

- ①骨髓液や血液と比較した場合、検査に必要な有核細胞数が得られない傾向があります。
※組織片が大きい場合でも線維化している場合には、有核細胞を得にくいことがあります。
- ②検査に必要な有核細胞数は得られても、腫瘍細胞の増殖能が低く増殖不良になる場合が多くみられます。
※造血器腫瘍のG-band検査は、腫瘍細胞の増殖能を利用するため分裂刺激因子は添加しておりません。
- ③全血や骨髓液に比べて細菌汚染されているケースが多いため、増殖が阻害されていることがあります。
※特に胃や腸などの組織は、細菌汚染されている例が多くみられます。
- ④検体採取から搬入までに検体採取後の処理や保存状況によって、細胞の増殖能が低下していることがあります。

【閲覧場所】 報告書下部にあります、QRコードから閲覧が可能です。

SIRL 染色体検査報告書		23-05-17	0030-00-03000-02920	受付 05年 05月 17日	
病院名	E17-111 LUSTER HP	科 名	血液	提出日	先生
氏 名	林 浩二	カルテNo.	9101112134	病 種	T3F
性別	M 30才	受付No.	000002	その他	
臨床診断名		検査No.	4SSE000200	検査番号	517-4SSE0002
				検査 05月 15日 発報 月 日	

【 検査項目 】	ケイG. BAND-MDS	Case ID	E230517-4E0002
【 検査方法 】	G-band	バンドレベル:	300~550
【 培養方法 】	PHA無添加		24・48時間培養
【 検査所見 】			

[細胞数]

【総分析細胞数】


【 検査結果 】 検査コメントをご参照下さい。

【検査コメント】

*お預かりした検体につきまして上記方法にて培養を実施いたしました。その結果、分析可能なMetaphase(分裂中期核板)が得られず、「増殖不良」の報告とさせていただきます。

なお、検査後のカルノア固定細胞はご依頼日から3ヶ月間保存しております。そのカルノア固定細胞を用いてFISH検査の追加が可能な場合がございますので、ご要望のFISH項目がございましたらお問い合わせください。

染色体検査で用いられる代表的な記号と略語、
模範記載は右記URLをご参照下さい。



検査者 春川純一 責任者 本山サチエ
模範No. E230517-4E0002

報告 05年 06月 01日 &1

SIRL 株式会社 エスアールエル
117-411 杉山3-29-1 東京都荒川区野町上50番地 ☎ 03-6837-6344
検査責任者 和田かおり